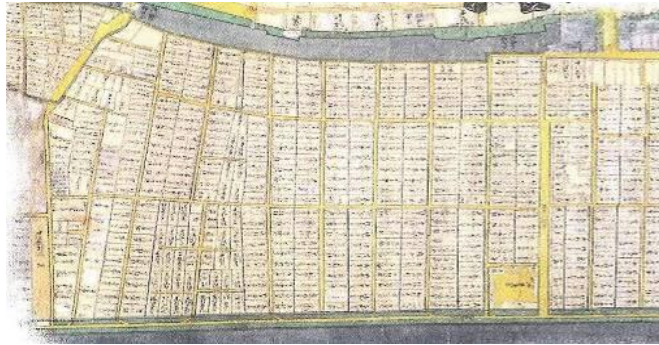


戦前に立てられた長屋は戦災を免れ、バブル期にも開発されず、今に残っている。大阪暮らしの今昔館には、空堀地区の戦前の路地がジオラマで展示されている。



彦根・芹橋の路地は、江戸初期に藩の足輕組屋敷地として計画的に作られた町割りにより生まれた路地であり、他の地域と較べると非常に合理的で袋小路も少ないのが特徴といえる。



を進める「からほり倶楽部」。その活動は、解体・売却されようとしていた長屋を請け負った地元建築家が、家主を説得し、解体費を改修費に使い、再生した長屋を分割して店舗に貸す「長屋再生」事業を始めたことから本格化した。そして、複合文化施設「萌」、お屋敷再生複合ショップ「練」・長屋再生複合ショップ「惣」などを生み出している。



このような活動の前段階には、からほりのまちの魅力をみんなに伝えようと2000年から始まった「からほりまちアート」がある。毎年10月に、地元商店街の協力を得て開催されている。



路地の魅力と課題

路地の魅力は、次の3つにまとめられる。

- ① 車が通らない、人に優しい(Human-scale)道。
- ② 私と公の部分が混ざり合う緩やかな空間。
- ③ 路地を介した人間関係・コミュニティが生まれ育つ場。暮らしのルールを学ぶ場。

一方、路地には、3つの課題がある。

- ① **防災上の不安**：緊急車両の進入が困難であったり、家屋が密集している場合は延焼の不安がある。小回りのきく消火設備や夜警や防災訓練など人的な対応を含め、まちの防災力を高める必要がある。
- ② **高齢化と増える空家**：住民が車ででの生活に便利な郊外の住宅地に流れ、密集地は敬遠されている。一方で、路地に魅力を見出す若い世代も着実に増えてきている。
- ③ **街なみの破壊**：建築基準法に適合させるため建替時には4mの道路が確保できるようセットバックが必要。そのため、門・塀が連なった落ち着いた街なみが壊れ、まちの魅力が損なわれている。景観に配慮する何らかのルールを設けたり、セットバックの緩和に向けた法整備が必要である。



つながりを生かすまちなみ

空堀のまちづくりのテーマは、「お地藏さんが見守る つながりを生かすまちなみ 「時代」と「世代」、そしてこころのつながり」(まちなみガイドラインより)である。さらに、3つの方針がある。

- ① 昔ながらの建物は、特色を生かしながら今の生活に合わせて大事に使い、次世代に引き継ぐ。
- ② 新しい建物は、昔ながらの良さを取り入れてまちなみとのつながりを大切にする。
- ③ 先人から受け継がれてきた路地の雰囲気や、お地藏さまなどまちに残る文化を大切にする。

この方針にもとづき、まちづくり事業が行われている。そして、優れた建物や取り組みには、「からほり推奨建物見つけ隊！」が建物を評価し顕彰している。

芹橋の路地を考える

芹橋の路地は、大阪や東京の事例と比べると、計画的で、しかも歴史的な価値が高いことが大きな特徴だ。



これを現代にどう生かしていくか考える必要がある。路地の課題は、それを裏返すと魅力でもある。新しい発想でその価値を見出し創造していく……。そんなまちづくりが、路地をめぐって始まっている。

路地を活かしたまちづくり

大阪・空堀地区で長屋・路地を活かしたまちづくり

それぞれの彦根物語 76

ひこね街の駅「寺子屋力石」《談話室》

●彦根市観光の現状と今後

～3年にわたる経済効果測定調査から

得田雅章（滋賀大学経済学部准教授）



彦根市を初めて訪れる人が約4割もある一方、10回以上のリピーターが10%にのぼった。

ひこにゃんグッズの売上は、H19年から17億円、10億円、8億円と減っているが根強い人気だ。

これらの調査結果を使い、モデル化して、得田先生は観光政策ごとの経済波及効果を試算した。

- ① 帰り道になる立花町や京町の充実で41億円の増加。
- ② 足軽辻番所→花しょうぶ通り→ひこね芹橋駅→彦根駅と新ルート開発すると74億円の増加。
- ③ ご当地グルメ、お土産などの独自商品開発で50億円の増加。
- ④ 平日観光キャンペーンで、9億円の増加

これらの政策で、たとえ観光客数が増えなくても150億円の経済効果が生まれる。ゆっくりと楽しく時間を消費する人々の姿が見えてくるようだ。

第77回：10月16日（土）10:30～

中世の笑いーフランスのファルス（笑劇）の世界と狂言の世界ー 小澤祥子さん（関西大学文学博士）

多賀里の駅 集い&野菜市

「多賀そば」は、本当においしい！

ゲストは、多賀町商工会女性部長 山本明美さん。近江鉄道多賀大社駅前「もんぜん亭」での地元ブランド「多賀そば」の開発。そば職人の育成・起業家訓練などを紹介されました。近畿一の生産量をもつ地元そばを使い、挽きたて、打ちたて、茹でたての香りとおいしさにこだわっているとのこと。他の団体と協働して、第1, 3, 4土曜日の限定で、「もんぜん亭」で提供しています。



試食会は、夏野菜のてんぷら（みょうが、おくら、万願寺、赤、黄パプリカ、他）、赤米のご飯、揚げ茄子そうめん、メロン



のお漬物、手前にエゴマの花を添えて香りを楽しみました。11月の里の駅は、

一圓屋敷の調度品から知る彦根藩とのつながり

母利美和さん（京都女子大学教授）

【日 時】 11月 6日（土）10:30～12:00

【会 場】 多賀「里の駅」一圓屋敷

【試食会】 「おいしい里芋料理」 参加料500円

一圓屋敷の屏風たち（特別公開）

戦国時代から続く一圓屋敷には沢山の屏風や掛け軸があります。江戸期の文化人達の書も残されています。普段は非公開の10点を、特別に公開します。

1. 期間 10月31日（日）～11月3日（水・祝）
2. 時間 午前10時～午後4時 入場無料
3. 特別プログラム

① 10月31日（日）13時30分～

滋賀雅楽会 雅楽演奏

② 11月3日（水・祝）13時30分～

特別講座「おかげ参り絵図を読み解く」

市川秀之さん（滋賀県立大学准教授）



山吹図屏風

農家レストラン ぴちオープン

10月31日（日）一圓屋敷にて「農家レストラン」の1日だけのオープンをします。新鮮食材を使った「多賀ならではのメニュー」をご用意。11:30と13:00の2部に分けて先着10名の方に特別価格1,500円でご試食いただきます。詳細は、後日お知らせします。

●各行事の予定は、ブログでもお知らせします。